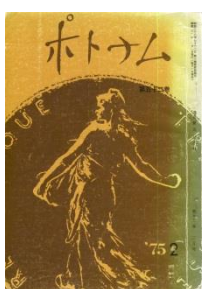


## 【目次】

1. 阿部静枝関連資料の寄贈を受ける、6月17日・24日！
2. 賀川豊彦記念館連絡協議会の皆さんが当歴史館を見学、6月27日！
3. ユニテリアン教会・惟一館の煉瓦塀の煉瓦を差し上げます！
4. 連載「日本労働会館物語」第49回（日本労働会館に結集した人々―阿部静枝その1―）！

### 1. 阿部静枝関連資料の寄贈を受ける、6月17日・24日



2014年は戦前の総同盟や社会民衆党で活躍し、戦後は豊島区議員などを務めた阿部静枝（歌人・評論家・社会運動家、1899～1974）の没後40年。このため当歴史館は、企画展「同盟結成50年」（2014.09.08～2015.02.28）の「同盟ゆかりの人」コーナーで阿部静枝を取り上げる準備を進めており、資料収集に取り組んでいます。

この程、歌人で阿部静枝を研究している内野光子氏より阿部静枝関連資料の寄贈を受けました。歌誌『ポトナム（阿部静枝追悼号）』（1975年2月号）や阿部静枝の手ぬぐい（阿部静枝の短歌を印刷）など約30点です。

### 2. 賀川豊彦記念館連絡協議会の皆さんが当歴史館を見学、6月27日！



キリスト教伝道者、社会運動家として知られる賀川豊彦ゆかりの5つの記念館（賀川豊彦記念松沢資料館、神戸賀川豊彦記念館、鳴門市賀川豊彦記念館、協同学園、本所賀川記念館）は6月26日・27日の両日、2014年度連絡協議会を開催しました。

26日は本所賀川記念館集会室で、27日は友愛労働歴史館研修室でそれぞれ開催し、「共用データベースの運用実績とその課題」などについて協議しました（写真は友愛労働歴史館研修室）。参加者は27日の協議会終了後、友愛労働歴史館の見学を行い、開催中の「J・コンドルと惟一館、山口文象と青雲荘」と常設展「日本労働運動の100年余―友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」を自由見学いたしました。

### 4. ユニテリアン教会・惟一館の煉瓦を差し上げます！

友愛労働歴史館は現在、開催中の企画展「ジョサイア・コンドルと惟一館、山口文象と青雲荘」を記念し、10名の方にユニテリアン教会・惟一館（明治27年建設。設計：ジョサイア・コンドル）の煉瓦塀の煉瓦を差し上げています。

惟一館はコンドルの設計になる和洋折衷の木造二階建ての建物で、その周囲には煉瓦塀が廻らされてきました。惟一館は関東大震災を耐え抜きますが、昭和20年5月24日の東京山の手大空襲で焼失します。しかし、一部の煉瓦塀は戦後も残り、また地下に埋まっていた煉瓦も2012年の新しい友愛会館建設の時に掘り起こされ、友愛会を偲ぶモニュメントとして活用されました。



また、一部の煉瓦は新しく作られた花壇に再利用され、残りは友愛労働歴史館に保管されていました。

友愛労働歴史館はこの度の企画展「ジョサイア・コンドルと唯一館、山口文象と青雲荘」を記念し、唯一館の煉瓦をとして先着 10 名の方に贈呈することにしました。希望者は友愛労働歴史館まで E メールで申し込んでください。但し、原則、当歴史館まで受け取りに来ていただける方と

いたします。友愛労働歴史館 E メール [yuirodorekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuirodorekishikan@rodokaikan.org)

#### 4. 連載「日本労働会館物語」第 49 回

＜日本労働会館に結集した人々—阿部静枝その 1—＞



阿部静枝（1899～1974 年）は、友愛会を創立した鈴木文治や大正デモクラシーの吉野作造と同じ宮城県の出身で、1899（明治 32）年 2 月 28 日、宮城県石森村（現・中田町）で生まれています。本名、二木志つえ。東京女子高等師範学校（現御茶ノ水女子大）在学中に尾上柴舟に師事し、1921 年に『水瓶』参加して二木静江の名前で短歌を発表しています。同師範学校を卒業した後、仙台に戻り、東華高女の教師を務めています。1923（大正 12）年、同校を退職して上京。社会民衆党の政治家、弁護士として活躍した阿部温知と結婚。その後、ポトナム社同人となり、1926（大正 15）年に第一歌集『秋草』を出版しています。1932（昭和 7）年には歌誌「ポトナム」に「女流歌人論」を発表し、若くして歌人として知られています。労働運動との関係では、総同盟の『労働婦人』に短歌を発表したり、「短歌講話」を連載しています。また阿部静枝は、戦前・戦後の総同盟・同盟機関誌の歌壇選者を長く務めています。

一方、阿部静枝は 1926（大正 15）年に結党された社会民衆党（安部磯雄や片山哲らが結成）の婦人組織・社会民衆婦人同盟の創立に参加するなど、無産婦人運動の活動家としても知られています。当時、阿部は赤松明子（赤松克麿夫人、吉野作造次女）や赤松常子（総同盟本部。後に参議院議員）らと並ぶ社会民衆党 3 婦人とされ、街頭集会・演説会などで大活躍しています。

また、静枝は阿部温知の死後、コラム・評論・随筆を新聞等に発表し、評論家としても活躍。『亭主教育・女の問題』、『女性教養』、『寡婦哀楽』、『結婚の幸福』、『若き女性の倫理』などを刊行しています。1942（昭和 17）年に東京日日新聞綴り方使節団長として満州に渡り、翌年には満鉄講師として各地で講演。また、農林省の委託で満州辺地の視察旅行などをしています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F Tel050-3473-5325

Eメール [yuirodorekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuirodorekishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

唯一館から 120 年、友愛会から 102 年